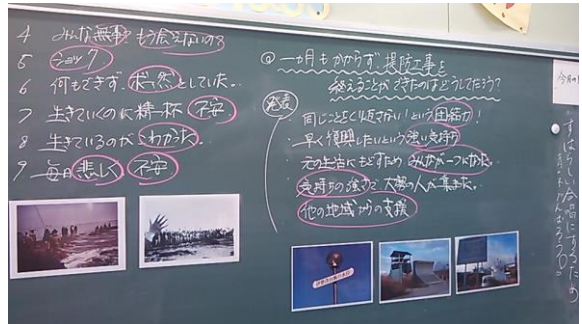


「三重県 心のノート」活用事例

校種	中学校	学年	3年	内容項目	3－(1) 4－(8)
主題名	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・地域社会の一員としての自覚 				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を乗り越えて ふるさとの今がある 伊勢湾台風 「三重県 心のノート 中学校」(三重県教育委員会) ・中学校社会科地図(帝国書院) 				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾台風がもたらした被害の甚大さを知り、当時の人々の気持ちを考える。 ・復旧に向けた人々の苦労や、今日の暮らしの礎を築くまでの努力について考える。 				
展開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の被害の様子がわかる写真資料や体験談から被害の甚大さを知る。 ・地図帳を活用し、被害のあった地域を確認する。 ・被災直後の小学生の作文を読み、当時の人々の思いを考える。(意見交流・発表) ・一カ月足らずで堤防を締め切ることができたのはどうしてかを考える。(意見交流・発表) ・振り返りとまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で学んだことと関連させて話をする。 ・当時の被災者の立場に立って、不安感や絶望感を感じさせたい。 ・復旧に向けた強い思いや、周囲の人々、国、県などの協力の必要性を考えさせたい。 		
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・春の校外学習(長良川河口堰、輪中地帯) ・社会科 地理的分野(近畿地方の災害～阪神・淡路大震災～) 				
成果と課題	<p><学習後の生徒の感想(一部)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二度と経験したくないという強い思いと団結力があつたから、今の暮らしがあるのだと思います。 ・このような災害が起きたとき、地元の人々と団結して乗り切れるようにしたい。 ・こんなに怖い思いをしたのに、くじけずに復旧作業をした人々はすごく強いなあと思いました。 ・家族を失い、家を失い、夢を失い、悲しく辛い思いをしたことでしょう。当時の人々の努力で今があると思う。 ・自然に対する人間の弱さを思い知った。でも、協力し、団結した時の人間の強さを知った。 ・生きることに必死になっている当時の人たちをカッコいいと思った。 ・復興したのはすごいけれど、やっぱりたくさんの方が亡くなってしまったので、災害がおこる前にできることはやっておきたいと思った。 				

- ・今の何気ない生活がどれほど幸せで、この生活はたくさんの人々の努力でできているのだと思った。
- ・それぞれの強い気持ちが団結し、大きな力となって事を動かしていることがすごく分かった。

【写真（提示資料の一部）（授業の様子）（板書）】



<成果と課題>

被災後の小学生の作文などから、当時の人々の悲痛な思いや、今後に対する不安な思いを感じとることができた。復旧作業について考える場面では、被災者の人々の復興に向けた思いや、強い気持ちで団結する人々の強さを考えることができた。また、グループ学習をとりいれたことにより、自分以外の考えに共感したり、反論したりしながら意見を深めていく様子もみられた。

しかしながら、国や県、周囲の人々の協力については、具体的に考えられる生徒は少なく、今後の学習の中で支援の方法についてなども学ばせていく必要があると考えている。